



さ とう かつ お
佐 藤 克 夫
(創政会)

●奥州市の将来像 ●地域防災力の充実 ●小中学生の生きる力の育成

質問 奥州市の将来像をどのように描いているか。

市長 自治と協働のまちを基本とし、公のサービスは選択と集中のまちづくりに転換。教育と医療のまち・地域が育てる農業・地域が人材を育てる物づくりのまちを目指す。県南の他の市や町と共存できる広域的視野にたつて自治体連携を強め、人口減少を見通した行政運営をすすめる。医療と教育の充実、雇用環境の改善等を重点とし定住化の促進を強めていく。自立に向けた意識改革が大事と考える。

質問 地域防災力充実としての自助・共助・公助の現状と課題について。

市長 災害に対する自助は各家庭で徐々にすめられているが共助に課題が多い。自主防災組織も奥州市で85%。防災意識を高めるためにも組織を100%にし、訓練を重ねることが大事。こうした活動を通して地域内における課題が明らかになり、自治会(町内会)・消防団・行政等と

の連携策がより具体化できる。

質問 小中学生の生きる力育成上の課題となっていることは何か。

市長 地域福祉計画にある子どもの地域行事への参加を積極的にすすめる、地域ぐるみで子どもの健全育成に努力していく。

教育委員長 学びの協働体の実践が効果をあげ学力差は見られない。子どもの体験不足を克服する自然体験・社会体験を地域の教育力との連携により積極的に実践していく。学校・家庭・地域が協力関係を密にしていく。

区名	自主防災組織数	組織内訳		組織率(%)
		町内会・自治会	小学校区	
水沢区	83	83	0	83.1
江刺区	20	11	9	93.7
前沢区	39	36	3	100
胆沢区	72	72	0	100
衣川区	28	26	2	93.3
合 計	242	228	14	89.6

※自主防災組織の結成状況 (平成26年4月8日現在)



せき しょう こ
関 笙 子
(創政会)

●どうしていつまでも借金が多いのか？

質問 私は合併時の5地区の財政状況と、奥州市となってからの財政状況について大きな関心を持って見て来た。私なりに合併に加わらなくてもやって行けそうな区もあった様に思う。しかしやはり少子化・高齢化・人口減少の絶対的な将来不安が背を押したものと思う。その後数々の特例を生かしても、なお、債務残高は減少することなく推移しており、今でも大きな不安となつて市民を心配させている。市長はこの現状をどの様に見ているか伺う。

市長 合併時に約束した10年間の総合計画・新市の建設計画は確実に守らねばならないと思っている。ルール内・ルール外を含めてこの計画は大きくかい離することなく、順調に推移して来ている。この間、人口減少・少子高齢化は合併時の想定を大きく上回り市税収入の伸びは期待できず、反面、公債費や扶助費が依然として高い水準のままである。この事も大きな要因と

考えている。

質問 私は今まで身の丈以上の事業を行つて来た事も大きな原因と考えている。外部監査等の導入により、行政の適正な事業の検証も大事と考える。また、平成20年に制定された行政の新会計制度の活用も財政の健全化に資すると思うがどうか。

市長 外部の視点の活用は重要と考えており、検討して参りたい。新会計制度はまだ日も浅く、分析手法や評価手法が確立されていない。今後引き続き研究し、有効な活用方法を模索して参りたい。財政の健全化に努力する。



人口減少、少子高齢化の対策が急務